



第37卷 第4号

史学・地理学・考古学

- 明代の票法……………佐伯 富 (1)
 ——明代塩政の一齣——
- 銀生産の動向(一)……………小葉田 淳 (27)
 ——院内銀山の研究(Ⅲ)——
- 劍・鏡・玉・矢の呪的性格……………田中 勝 藏 (51)
- 宇治茶業に関する若干の地理学的考察……………浮田 典 良 (75)

資料紹介

- ミノアン スクリプトの解説……………川 畑 真 治 (90)

書 評

- J. Gernhuber: Die Landfriedensbewegung in Deutschland bis
 zum Mainzer Reichslandfrieden von 1235……………鱒 田 豊 之 (95)
- W. Smith: An Economic Geography of Great Britain……………押 野 昭 生 (101)
- 村田正志: 証註椿葉記……………赤 松 俊 秀 (105)
- 伏見稲荷大社: 稲荷大社由緒記集成 祠官著作篇……………黒 田 俊 雄 (106)

学界消息

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
 東洋史研究会
 振替口座京都三三七二八号

のそれと同様に、初期の年度の春秋いずれかの持役高を摘記したものと推定される。

② 諸役運上はすべて運上目で計算されるので、銀山内外の通用には京目即ちれいてんぐ目を以てする。数字は京目では二割増となる。

③ 佐渡では近世初期の盛山時代に、洗濯賃を稼ぐ婦女があつた。これがしだいに娼婦化したのである。

④ 鉛座の取得として出目鉛の代銀の一部分が与えられるから、払鉛はこの代銀相当分の外に多少あるわけである。

蜀とペルシア

宋の張唐英(二〇二九一—二〇七二)の獨轡杙は五代の蜀の事を記した書であるが、其中に

広政元年(九三八)二月、民訛言すらく、後宮蛇を産み、人の心肝を取りて食う、と。百姓驚恐し、遯月方に止む。

なる記載がある。この訛言の内容は、有名なペルシアの詩人フィルドウシ(九三九—二〇〇頃)のシャーナーマの始に出てくる

ゾーアーク王の両肩に悪魔が接吻すると、そこへ二匹の蛇が生えた。王は以後、人を殺してその脳で蛇を養わねばならなかつた。

⑤ 坑場法律 ふき方会所第六 一火処で一日に新銀かぶら一八、九貫、これにからみ、を過半調和して総高四〇貫、一度吹高八貫として五度吹となる。荒吹毎に鉛を二斤使用、新銀からみ合して八貫を荒吹し中品の銀で三〇目位の銀は出るもので、五度一五〇目を得よう。三〇〇貫の新銀に対して以上の火処二〇ヶ所位必要で、結局銀三貫を得るに鉛二〇〇斤を使用し減少する分は凡そ二〇貫となる。これだけの銀をうれば、当時(江戸後期)では山主の利益は諸経費を差引き相当大であるという。

と言う物語と同根のものではなからうかと思う。少し突飛な考のようだが、唐以後、蜀と西域とは、恐らく錦を媒介として、案外密接な関係があつた。梵語雜名に長安 Kundan と並んで蜀 Amida が載せられ、鑑誠録卷四に蜀中土生波斯なる李珣があり、九国志卷七に万州の人にて本波斯之種なる石処温がある。錦里舊日伝卷六光天元年条の西域胡僧滿多三藏、卷七広政五年条の西域胡僧、資治通鑑卷二五二咸通十一年条の注に引く成都記の胡僧、北夢瑣言逸文卷二の感通中の天竺三藏僧なども皆ペルシア人であろうか。北夢瑣言卷四に見える青城県弥勒会(金剛禪)妖人なる者は、嘗て重松俊章教授が論ぜられた如き、宋初の喫菓事魔の教に接続するマズダク教徒であつたと思われる。(宮崎市定)

- ③7 朝鮮學報第六輯
- ③8 神話學論考
- ③9 神話學論考
- ④0 建國神話論考
- ④1 建國神話論考
- ④2 建國神話論考
- ④3 建國神話論考

- ④4 拙稿「天照大神新考」―徳島大学社会科学紀要第三卷
- ④5 日本古代宗教
- ④6 拙稿「天照大神新考」
- ④7 神代劔考―神道史研究第一卷第三号
- ④8 先代旧事本紀
- ④9 拙稿「聖語『E』の研究」
- ⑤0 神功五十二年紀

會員移動

新入會

愛知學芸大學
名古屋分校圖書館
宇都宮清吉
加地文彦
九州工業大學
附屬圖書館
西川正二
藤井大恵
山本有三
脇田修
住所変更
淺野清

名古屋市東区大幸町一ノ一

福岡県戸畑市中原

金子光介
亀井正道
佐藤武敏
滝川政次郎
福沢宗吉
藤井甚太郎
別技篤彦
増永昭一郎
三田村泰助
諸戸立雄
山根幸夫

を追及し、歴史の各時代にはその發願をのみ検証するという仕方からは、本書はあるいは珍しくないかも知れないが、各時代における信仰の役割と変化とについて丹念に探究するために、極めて大きな示唆を与える一つといわねばならぬ。ただ本書は「詞官著作篇」であり、稲荷信仰全体からみれば、どうしても、上部の、理論的述作であり、單純に全般の代表とはいいい切れない。この点からいえば、他の「一般著作」「信仰著作」の二篇が一日も早く公刊され、三篇あいまつてやがて当時の信仰全般の姿が明らかにされるのを切望してやまない。

なお本書としても一つ注意すべきことは、国学の礎を築いたとされる荷田春満については、それは、さきに紹介した春満の自筆本が収録されているという理由からだけではない。また国学を創始する春満の前身という意味からだけでもない。実に春満が、どのような神道観ないし故事研究のなから

現われてきたかという点において、すなわち秦一荷田兩氏の思想上・理論上・考証上の対立が、国学の展開のためのどういう素地あるいは動機をつくつていたかという点において、注意されるのである。国学については私自身よく通じないので詳しいことに論及出来ないが、しかし今日、国学が新しい観点から見直さなければならぬといわれている以上、必ずや本書がその研究の上に寄与するところがあると信ずるものである。神仏習合についての解釈や反駁、由緒・起源を研究する態度、儒説の援用などに、そのことは片々と示されている。

以上、私は、ただ宗教学史、思想史の角度からだけの所感を記したのであるが、その他、故実、制度、地誌、建築、社領など各方面の資料が数多く含まれていることはわざわざ指摘するまでもないことである。しかしそれについては私には詳しく紹介する資格もなく紙数も尽きたからさしひかえることにしたい。

ただ最後に、重ねて史料の出版という困難な事業をなしとげられた稲荷大社の方々に、学徒として深甚なる感謝の意を表して、この粗雑な紹介をおえることとする。(A5版、本文三三九頁、図版一四、昭和二十八年八月、伏見稲荷大社編)

——黒田俊雄——

執 筆 者 紹 介

- | | |
|---------|------------------|
| 佐 伯 富 | 京都大学助教授 |
| 小 葉 田 淳 | 京都大学教授 |
| 田 中 勝 藏 | 徳島大学教授 |
| 浮 田 典 良 | 京都大学助手 |
| 川 端 真 治 | 京都大学大学院学生 |
| 齋 田 豊 之 | 島根大学助手 |
| 押 野 昭 生 | 京都大学大学院学生 |
| 赤 松 俊 秀 | 京都大学教授 |
| 黒 田 俊 雄 | 京都大学大学院特別
研究生 |

歴史の立場から見た「国際政治」——
パワール・ポリテスィックについて

江口 朴郎（東大）

地理学関係

人文地理学会第五回例会

四月二十五日（日） 奈良女子大学文学部

岡山平野の地形 帷子 二郎

日本地理学会春季大会

五月二、三日 明治大学大学院

史学研究会々員関係の研究発表は左記の通りである。

低湿地農村——愛知県海部郡十四山村

に於ける土地問題を中心とする農村

構造と農業 喜多村俊夫

都市構成上よりみた衛星都市の性格

大阪周辺の場合——

小林 博

愛知県矢作町の生産構造（一）

——給与所得者に関する分析——

井関弘太郎

露店市場の地理的連鎖に関する二、三

の考察——京阪神三都の場合——

樋口 節夫

近江における地域的分業の進展

矢野 一彦

欧人の西印度経営と奴隷労働力問題

——歴史的方法による労働力気候的

適性の人種差に関する研究——

和田 俊二

通婚現象の地理学的考察

農業経営に於ける兼業の成立について

——安曇川三角洲新儀村の場合——

藤本 利治

隔絶地に於ける集落社会の分化——平均

化作用と自然環境の問題

——信楽山塊の高尾部落の場合——

谷岡 武雄

考古学関係

考古学談話会新専攻生歓迎会

五月十八日（日）午後三時

新専攻生として田中琢氏を迎え、左記の調

査概報・資料紹介を聴く。

豊岐原の辻周辺遺蹟 川端 真治

湖南省長沙出土品について

梅原 末治

編集後記

近頃は天災が忘れぬ中にやって来ます。今年もここ数日來の雨で各地に被害の生じたことが伝えられています。會員の皆様が御無事で、この第四号を御手にされることを祈っております。本号は十七世紀頃の日本及び中国の経済史に關した論文を中心としたものになりました。今後とも猶一層の御支援を御願い致します。（狩野）

史 林（第三七卷、四号）

一九五四年七月一日 印刷
一九五四年七月五日 発行

定価 百円

発行所 史 学 研 究 会

振替大阪一四五五六番

京都府左京区吉田木町
京都大学文学部内

印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXVII, NO. 4

Jul. 1954

CONTENTS

Articles :

Letters Patent in the Ming Dynasty..... *T. Saeki* (1)

The Output of Silver in the Inmai (院内) Silver Mine
..... *J. Kobata* (27)

Short Notices :

Magic Nature of Sword, Mirror, Bead and Arrow... *K. Tanaka* (51)

Geographical Studies in the Tea Manufacture of Uji (宇治)
..... *T. Ukita* (75)

Decipherment of the Minoan Script..... *S. Kawabata* (90)

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan